

小児科



診療科長
浅井 康一

専門医資格等

日本小児科学会専門医・指導医
日本アレルギー学会専門医・指導医
日本小児アレルギー学会 評議員
日本小児感染症学会 評議員
Infection Control Doctor(ICT)
京都大学医学博士
京都大学医学部 臨床教授

専門分野

小児アレルギー
小児感染症

得意疾患

食物アレルギー
喘息・アトピー



NICU診療科長
河田 興

専門医資格等

日本小児科学会専門医
日本周産期新生児医学会
周産期(新生児)専門医・指導医
日本臨床薬理学会 専門医・指導医
日本新生児成育医学会 薬事医員
小児臨床薬理学会 教育委員・運営委員
新生児蘇生法「専門」コースインストラクター

専門分野

新生児
臨床薬理
得意疾患
妊娠と薬
新生児と薬



GCU診療科長
黒須 英雄

専門医資格等

日本小児科学会専門医
日本周産期新生児医学会
周産期(新生児)専門医
新生児蘇生法「専門」コース
インストラクター
国際ラクテーション
コンサルタント(IBCLC)

専門分野

新生児
得意疾患
新生児
母乳育児

□ スタッフ

平成29年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医師	石塚 哲也		小児全般	小児感染症
医師	北 誠	日本小児科学会専門医 新生児蘇生法「専門」コースインストラクター	小児全般	虐待・遺伝性疾患
医師	橋本 有紀子	日本小児科学会専門医 日本人類遺伝学会 遺伝専門医	小児内分泌代謝	低身長・甲状腺 遺伝性疾患
医師	阿水 利沙	日本小児科学会専門医 日本周産期新生児医学会 周産期(新生児) 専門医	新生児	極・超出生体重児
医師	仁井 純子	日本小児科学会専門医	小児全般	
非常勤医師	秋山 佑一	日本小児科学会専門医	血液・腫瘍	心身症

□ 診療科の特徴

施設認定等	京都大学小児科専門研修プログラム連携施設 周産期(新生児)専門医指定研修施設 日本アレルギー学会専門医教育研修施設
-------	---

- 1.お子さんの、心とからだの発達を重視します。
- 2.スタッフ全員が、新生児から思春期までの小児の診療がおこなえるよう研鑽しています。
- 3.新生児期から小児期に外科的治療が必要な例には専門施設と円滑に連携をとっています。
(京都大学病院・京都府立医科大学病院等)
- 4.病気の治療にとどまらず、予防接種による感染症の予防にも力をいれています。
- 5.長期入院が必要な小・中学生は、学習が継続できるよう院内学級(京都市立桃陽総合支援学校)が利用できます。
- 6.京都市から委託をうけ院内病児保育を実施し、子供さんが体調不良で登園・登校できない時にも、ご家族の方が仕事を休まずにすむようサポートしています。

□ 主な対象疾患

新生児・低出生体重児(極低出生体重児1500g未満・超低出生体重児1000g未満)・新生児黄疸・糖尿病や甲状腺疾患母体からの出生児・新生児薬物離脱症候群

食物アレルギー・気管支喘息・アトピー性皮膚炎

低身長・甲状腺機能異常・糖尿病・肥満・先天代謝異常・遺伝相談

先天性心疾患・川崎病

てんかん・発達障害・自閉症・心身症・不登校など

□ 診療(業務)内容

- 1.平成12年から新生児集中治療室(NICU6床)、平成23年から新生児治療回復室(GCU6床)を開設し、産婦人科と密接に協力し24時間体制で赤ちゃんの診療を行っています。
- 2.小児病棟(2-3病棟)では、肺炎・胃腸炎・脱水症・熱性痙攣など小児一般急性疾患の入院治療をしており、病棟保育士も常駐しています。
- 3.外来診療は、一般外来の他、専門外来(アレルギー、内分泌、神経、心臓、NICUフォローアップ)や予防接種・健診があり、食物アレルギーでの食物経口負荷試験、内分泌疾患での負荷試験や学校検診(心電図・検尿)異常の精査をしています。

外来初診の場合、可能であればかかりつけの先生からの紹介状をご持参ください。

□ 診療実績(平成29年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
9.9名	297名	11.9日

外来患者数

1日平均患者数
30.9名

□ 地域医療連携・広報活動

第34回日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会 実行委員長 浅井康一 2017年7月22-23日

(ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センター)

第24回京都小児科医会 感染症研究会 特別講演 座長 浅井康一 2017年11月4日(京都ホテルオークラ)

第31回近畿小児科学会 一般演題 座長 浅井康一 2018年3月11日(大阪国際会議場)

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

学会名	演者	演題
第26回伏見臨床小児科懇話会 2017.9.2	浅井康一、秋山祐一	最近までに経験した、小児の異物例
第49回日本小児感染症学会 総会・ 学術集会 2017.10.22	浅井康一	耳下腺腫脹をともなわず発症したムンプス髄膜炎の1例
第54回日本小児アレルギー学会学術 大会 2017.11.18	浅井康一、田坂佳資、仁平寛士、日衛嶋栄太郎、 井澤和司、河合朋樹、八角嵩裕、西小森隆太	高度貧血を呈した乳児消化管アレルギーの1例

第31回近畿小児科学会 2018.3.11	浅井康一、仁井純子、秋山祐一、田坂佳資、仁平寛士、井澤和司、八角高裕、西小森隆太	高度貧血を呈した乳児消化管アレルギーの1例
日本新生児育成医学会 2017.10.12	河田興、阿水利沙、黒須英雄	Aripiprazole内服母体から出生した新生児の血中濃度測定
日本小児臨床薬理学会 2017.10.7	河田興、阿水利沙、黒須英雄	Aripiprazole内服母体から出生した新生児の血中濃度測定
日本新生児黄疸研究会 2017.9.16	河田興、伊藤進、小谷野耕介、安田真之、岡田仁、日下隆	極低出生体重児のグルクロン酸抱合能に関する検討
第59回日本小児神経学会学術集会 2017.6.16	北誠、桑田康弘、村瀬永子、秋山祐一、白井健	95.2%の片アレルの欠失を同定した新規PRRT2変異の発作性運動誘発性ジスキネジア(PKD)兄弟例
第10回京都NICU懇話会 2017.7.22	黒須英雄、阿水利沙、仁井純子、橋本有紀子、北誠、石塚哲也、河田興、浅井康一	内臓逆位を呈した6番染色体異常の1例
第32回日本母乳哺育学会 2017.9.16	黒須英雄	授乳支援必要度スコアリング導入の試み(第2報)
第15回IBCLCのための母乳育児カンファレンス 2018.2.25	黒須英雄	授乳支援必要度スコアリング導入の試みと改変

□ 投稿論文など

著者	タイトル・著書・雑誌名
河田興、中嶋尚子、喜田孝史、黒須英雄、阿水利沙、高倉賢人	エドキサパンのヒト乳汁移行の検討—妊娠・産褥期に処方する経口抗凝固薬(NOAC)における問題点—日本小児臨床薬理学会雑誌 30巻1号 Page25-29
河田興	【根っこ 生理を知れば看護が見える 新生児ケアまるわかりBOOK「だからこうする」をビジュアルで解説!】(第1章) 赤ちゃんの状態を整える 与薬 Neonatal Care 2017秋季増刊 Page90-103
Okada H, Kawada K, Itoh S, Ozaki M, Kakutani I, Arai T, Koyano K, Yasuda S, Iwase T, Murao K, Kusaka T.	Effects of bilirubin photoisomers on the measurement of direct bilirubin by the bilirubin oxidase method. Ann Clin Biochem. 2018;55(2):276-280.
Makoto Kita, Yasuhiro Kuwata, Nagako Murase, Yuichi Akiyama, Takeshi Usui.	Novel Truncation Mutation of the PRRT2 Gene Resulting in a 16-Amino-Acid Protein Causes Self-inducible Paroxysmal Kinesigenic Dyskinesia. Mov Disorders clinical practice 2017; 4:625–628.
Michiko Wada, Makoto Kita, Kaoru Kawasaki, Toru Kusakabe, Tetsuya Tagami Noriko Satoh-Asahara I, Akira Shimatsu and Koshi Hashimoto.	False-positive TSH receptor antibody Endocr J. 2018 Mar 10. doi: 10.1507/endocrj.EJ17-0426. [Epub ahead of print]
岩井謙治、天羽清子、石川順一、金聖泰、榎原杏美、橋本有紀子、川北理恵、細川悠紀、依藤亨、外川正生	インフルエンザ感染を契機に発症した抗GAD抗体関連小脳失調症.日児会誌 2017; 121: 719-723.
Hashimoto Y, Dateki S, Hirose M, Satomura K, Sawada H, Mizuno H, Sugihara S, Maruyama K, Urakami T, Sugawara H, Shirai K, Yorifuji T.	Molecular and clinical features of KATP -channel neonatal diabetes mellitus in Japan. Pediatr Diabetes 2017; 18(7); 532-539.